アルパ（パラグアイハープ）演奏会　報告

日　時　　3 月 15 日（土）　午後 1 時 30 分～
場　所　　つどいの家「はむろ」

演奏者　　野中みさえさん

1997 年　第 1 回全日本アルパコンクール金賞受賞
1998 年　ベネズェラのアルパフェステバルに招待

右側が息子さんの伴奏者　　野中一弘さん
右手にギター・左手はクアトロ（四弦）

野中さんは、1989 年～1995 年まで、ブラジルのサンパウロに在任中、パラグアイの民族ハープ奏者オスバルド・ガオナ氏に師事。
帰国後日本各地でコンサート活動・演奏会を行っている。

曲　目　　さくらさくら・ジェガーダ(到着)・恋するインディオの踊り・ラノビア・コンドルは飛んでいく/花祭り・アルパの為のミロンガ・カスカーダ(滝)鐘つき鳥・コンパシオン・コーヒールンバ

11 曲は全て野中さんの編曲で、背景などの説明がなされました。曲想が分かると楽しみ方も増えてきます。滝の風景や鳥の騒がしさから恋の様子なども、野中さんの技術とハープの音色でよく伝わってきました。

50 名と最近では最も多い参加者が「こんな素敵な演奏会またしてください」と喜ばれたことは、うれしいことでした。

パラグアイ・ハープとは

16 世紀の初め、ヨーロッパのキリスト教宣教師によって中南米にもたらされたハープは、その魅力的な音色でインディオと呼ばれた先住民の人々の心をとりこにしました。パラグアイだけでなく、メキシコ、ペルー、ベネズェラ、コロンビア、エクアドル、チリ、ボリビアなどの国に独自に発達し、民族音楽の一端を担う楽器になり、今も民衆の心を支えています。

特色は、オーケストラで使われているハープより小型で、下部に大きな共鳴版があります。爪で演奏するため音色は華やかで温かく、琴やギターに似ていると言われています。